

令和7年度 保育園の自己評価

テーマ「安心できる環境が子どもの育つ力を引き出す（見守り・信じ・安心を土台に育ちを支える）」

当園が目指す保育とは・・・

- ・「安心」が子どもの育つ力の土台になり、思いきり遊び挑戦し成長することができます。子ども達一人ひとりの気持ちを受けとめ、温かく見守りながら「たのしい！」「はっけん！」「やってみたい！」という気持ちを大切に！！
- ・子どもの気づき、考え、学ぶ姿に応答的に関わり、子どもの豊かな心に共鳴する大人の存在を大切に！！

○「その保育を実現するための課題」

- ・子ども理解を深めるよう自己研鑽していく（大人自身もワクワク楽しめるように）
- ・Webなどを活用し振り返りや情報共有の時間を確保する
- ・子どもの育ちを保護者と共有する
- ・子どもの姿や表現を知り認めていく

○課題改善に向けての取り組み

- ・アート活動の導入（3・4・5歳児）
- ・環境整備（外部講師に学ぶ）
- ・小学校との交流（中の町小・山内小）
- ・法人勉強会（前半の内容は職員主体で運営）
- ・作品展の開催（3・4・5歳児・発表会同時開催）



「環境作りの様子」



「小学校との交流」



「法人勉強会の様子」



「作品展の様子」



テーマ「みんなで話そう！」



「戸外でひろく保育の視点」



「アート活動の様子」

○令和8年度の取り組みへのバトン

今年度からアート活動を3・4・5歳児対象に月2回導入する。（講師は沖縄こども美術教室の平岡昌也氏）自由に表現できる事の楽しさ、仕上がった時の達成感、作品に対する愛着、作品作りに向きあうプロセス等アート活動の中で繰り広げられる子ども達一つひとつの姿に意味があり豊かな育ちに繋がる活動となっている。

環境整備に関してはおおぞら教育研究所の木村歩先生を年4回招き、座学、ワークショップを通して環境についての学ぶを深める。全国の保育園の環境を参考にしながら自園の子ども達に必要な環境づくりを職員の手で作りに上げていく作業を積み重ねてきた。自分達で作った環境に対して子ども達は素直に反応してくれる。遊びが広がり充実する姿に環境整備を手がけてきた職員は喜びを感じることができている。

近隣の小学校（山内・中の町）との交流も定着してきている。交流を通して卒園児が小学校で生き生きと過ごす姿を確認できると同時に、子ども達も小学校で鐘の音を聞いたり机や椅子、黒板を見たりする事で小学校のイメージを持つことができる。またお兄ちゃん、お姉ちゃん達の優しさに触れ小学校に対する不安感を軽減できたように感じる。

行事に関して6月に行われたファミリーデーでは大好きなお父さんお母さんと安心して親子競技等に参加する子ども達の姿が見られた一方で暑さが課題となった。次年度は開催時期を検討する。また日頃の作品を保護者の皆さんに見ていただく機会を設けようと年度始めに作品展を計画する。（12月の生活発表会と同時開催）一人ひとり仕上げた作品は個性あふれる素敵な作品ばかりであった。舞踊や空手に取り組み舞台上で発表することで自信をつけた子、作品作りが好きで作品展に複数展示する子、多様な面で子ども達の感性や可能性を披露することができたように思う。

今年度から職員が心身の健康維持とともにリフレッシュできる環境を整える為、2日間の「リフレッシュ休暇」を導入し職員間で調整しながら計画的な取得ができた。また、シフト手当（早番～遅番の時差出勤）や事務手当（クラス担任）を設けることで、業務内容に応じた処遇改善を図り職員の意欲向上につながった。課題としては、全員平等に休憩時間を確保できるよう模索中である。

令和8年度も保育所保育指針を基盤にしながら、子どもの気持ちに寄り添い、「ここが安心できる場所」と感じられる毎日を大切に子どもたちがもつ育つ力を信じ、一人ひとりの笑顔と健やかな成長を、保護者や地域とともに温かく見守り支えていきたいと思う。